

第 58 回全国学童保育研究集会（20231104~20231105）レポート

【クラブ】（ たけのこのクラブ ）

【名 前】（ 岩井 里真 ）

参加した分科会のタイトルをお書きください。

第（ 12 ）分科会 （ 指導員の専任・常勤・複数体制、労働条件 ）

※全体会のみに参加の場合は、全体会の記念講演のタイトルをお書きください。

2 日間の全体会と分科会で心にのこったことや気づいたことや学んだこと、今後の実践に活かしていきたいことなど、感想もふくめてお書きください（自由記述）。

分科会のテキストの冒頭に『指導員自身が継続的に働きつづけられなければ、その施設も安定に存続していけるとはいえないのではないかなと思います。』という一文があり、とても心に刺さりました。子どもにとっての安心安全、安定的な生活や遊びとは、『いつも』の環境なのだと感じました。いつもの場所、いつもの遊び場、いつものおもちゃといった物的環境は勿論のこと、いつもそばに居てくれる家族、学童に帰るといつもいる友達、そして、いつもの指導員。これこそが安定的で安心できる場所なのだと感じました。また、指導員が安定的に働き続けられないことで、継続した保育の連携が困難となり得ます。1 人の指導員が保育するのではなく、複数の指導員で多角的な視野で、連続的に連携をとり保育することでより安心でき安定的な生活ができるのです。この様に、子ども達にとっても、そして学童で働く指導員にとっても安定的な場所を確保するために、指導員自身が継続的に働き続けなければいけないことを強く感じました。

分科会的前半は労働条件についてのレポート報告、後半は『長く働き続けるために』をテーマにグループワークを行いました。レポート報告では、給与面や休暇の大切さについて話がありましたが、グループワークでは、労働条件についてはあまり触れられず、そういった労働条件も大切ではあるが、環境面もとても大切という話で盛り上がりました。“長く働くために自分が居心地の良い働きやすい場であるか” や “指導員同士で意見を言い合い共有・共感できるか” が大切とう意見が多く、中でも意見を言うのをためらってしまったり、我慢してしまったりして突然辞めてしまう方について議論が繰り広げられました。キャリアの長い方からは、「そういった時こそ飲み会で話ができるように飲み会を開くといいよね」という意見もありましたが、そういう場が苦手な方や、そもそも言えない方は、そういう場にも参加しないという意見も出て、最終的に解決は出来ませんでした。労働環境改善に努める大変さや難しさを強く感じました。

全ては子どもの為に繋がることではあるが、保護者、指導員、場合によっては地域や学校、そしてやはり何より子どもと、多方面に目を向け考え日々過ごしていかなければならないのだと強く感じました。

とても楽しい研修だったのでもっと時間が欲しかったです。